

「学びの变革」通信

第1回算数・数学科授業研究会（小学校算数）

7月15日（火）に泉北小学校を会場として、第1回算数・数学科授業研究会（小学校算数）が行われました。イノベーション人材育成推進教員の奥井翔太先生の授業づくりに対する熱量、児童一人一人を生かす学級の在り方など、たくさんのことを学ぶことができた研究会となりました。

以下は、当日の主な学習過程を基に、授業の中で見られたすてきな働きかけです。ぜひ参考にしてください。



学習活動・内容

1 問題場면을捉える。

120cmのリボンを3本に切りました。AのリボンはBのリボンよりも14cm長く、CのリボンはBのリボンより8cm短くなっています。

3本のリボンの長さは、それぞれ何cmですか。

（誤答）

$$120 \div 3 = 40$$

A $40 + 14 = 54$ 54cm

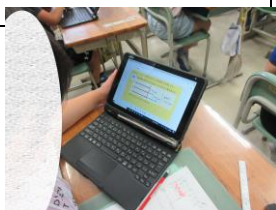
B 40cm

C $40 - 8 = 32$ 32cm



2 本時のめあてをつかむ。

ばらばらに分けた3本のリボンの長さは、どうやって求めればいいの？



3 課題解決への見通しをもつ。

4 課題を解決する。

（1）自力解決する。

① 一番短い長さにそろえてから、3等分する。

② 一番長い長さにそろえてから、3等分する。

③ 真ん中の長さにそろえてから、3等分する。

（2）全体交流を通して、考え方を確かめる。

5 学習のまとめをする。

どれか1つのリボンに長さをそろえてから、違いを考えると求められる。線分図を使うと、違いが分かりやすい。



6 適用問題に取り組む。

7 算数日記を書く。

（下線部を隠して）

T この問題だったらどんな式になるのかな。

C $120 \div 3 = 40$

C 一本40cmになる。

C①でも、隠してあるところがあるから答えは違うと思う。

C②昨日は2本のリボンだったけれど、今日は3本になったね。

下線部分を隠して問題を提示すると、子どもたちは口々に気付きを表現し始めた。特に、C①やC②は、昨日までの学習内容との違いや解決に向けて難しそうなところを表出しており、課題に対して積極的に働きかけている様子がうかがえる。

このように、教材の提示の仕方を工夫することで、子どもが主体的に学びに向かう姿を引き出すことができた。



（学習過程4(1)①の考えを提示した後）

T 困ったらお話してごらん。

C $120 - 8 - 22$ の22の意味が分からない。

C BはCより8cm長いから「-8」だよ。

C③「-14」なら意味が分かるんだけどな。

C④AはBより「さらに」14cm長いから「-8-14」で「-22」だよ。

式だけではなかなか問題場면을捉えられない子どもたち。そこで、教師は、式のどこが分かりにくいのかを明らかにするために、困ったところを共有する時間を確保した。そうすることで、式を立てた過程を明らかにするC③やC④の姿を引き出すことができた。



※ 研修の感想については、次回以降掲載いたします。